地域性からみた地縁活動のメタ的分析

宮崎　智[1]・野口　寛貴[2]・力石　真[3]・布施　正暁[4]

[1] 学生会員　広島大学大学院　先進理工系科学研究科（〒739-8527 広島県東広島市鏡山 1-4-1）
E-mail:m236850@hiroshima-u.ac.jp

[2] 正会員　東京工業大学　日本学術振興会特別研究員　環境・社会理工学院（〒108-0023　東京都港区芝浦 3-3-6）
E-mail: noguchi.h.ai@m.titech.ac.jp

3 正会員　広島大学大学院准教授　先進理工系科学研究科（〒739-8527 広島県東広島市鏡山 1-4-1）
E-mail: chikaraishim@hiroshima-u.ac.jp

4 正会員　広島大学大学院准教授　先進理工系科学研究科（〒739-8527 広島県東広島市鏡山 1-4-1）
E-mail: masa-fuse@hiroshima-u.ac.jp

本研究では,地域性に焦点を当て,これと３つの地縁活動の協力意向の関係を,アンケート調査を実施して.メタ的に分析する.ここで地域性とは,リーダーのパーソナリティや地域外の主体との繋がりが強いかどうか,社会関係資本の蓄積,活動に参加しなかった場合に周りから白い目で見られるかなどを指す.その結果,交流が盛んで,信頼関係がある地域でも地域の人を助けるという共助意識が芽生えないと協力意向には結び付きにくいこと，住民の意見に耳を傾ける以外のリーダーパーソナリティが協力意向に作用する可能性があること,住民だけで運営から実施まで行うことが難しい活動への参加は地域外の主体と繋がりが重要であること,責任負担が大きい活動への参加は住民個々の自主性が重んじられた方が良いことが示唆された.

Key Words: *Resident Activities, Meta-analysis, regional characteristics, Questionnaire survey,*

1. はじめに

近年,中山間地域を中心に人口減少と高齢化の進行が進んでいる.それにより,本来地域の諸課題に対応すべき行政や民間事業者が財源の制約や採算性から活動の縮小撤退傾向にある.

そこで,これらの現状に対処していくために,住民自らが自分たちの地域のために主体的に行動することが注目を集めている.本研究では,これらの住民主体の活動を「地縁活動」と呼称する.

しかし,地縁活動は中山間地域等の人口減少,高齢化が進んでいる地域ならどこでも起こっているわけではなく,活動の起動は地域の特徴すなわち地域性と関係があることが言える.したがって,地縁活動の協力意向を分析する際には,住民個々が持つ意識の他に,その住民が暮らす地域がどのような特徴を持っているのかということを同時に知る必要がある.

また,地縁活動には様々な種類の活動が存在し,ある一つの活動の協力意向に対して有意な要因が得られたとしても,他の活動では全く異なる結果が得られる可能性がある.つまりメタ的な視点で地縁活動の協力意向を捉える必要がある.

ここで地縁活動の協力意向に関する分析を行った既存研究をレビューする. 村上ら[1)]や谷内ら[2)]は特定の地縁活動に注目し, 山口ら[3)]や劉ら[4)]･François[5)]は,地縁活動そのものに着目し,協力意向に影響を及ぼす要因,地縁活動自体が普及するために必要な条件について明らかにした.しかし,これらの既存研究では個人が持つ属性に注目して協力意向を分析したものが多く,地域の特徴を説明変数に加え議論したものは少ない.また,地縁活動間の種類による協力意向に与える要因の差異について指摘したものも少ない.

そこで,本研究では3つの地縁活動に関するアンケート調査を実施し,地域性と協力意向の関係を分析し,これらの関係性について活動間を比較しながらメタ的に捉えることを目的とする.

2. 分析方法

本研究では, 学童見守り活動,防災活動,清掃活動に関するアンケート調査を元に,被説明変数を活動の協力意向とした順序ロジスティック回帰分析を各活動に対して行う.

学童見守り活動は,小中学校の児童生徒の登下校時に通学路に立ち,犯罪被害や交通事故から守る活動,防災活動は地域の巡回や防災意識向上のための研修会,避難訓練などを行い,災害に備える活動,清掃活動は道路や建物,公園のごみ拾い,雑草除去を行い,地域の美化に努める活動とアンケート内で定義し,回答者に示した.

被説明変数である,地縁活動の参加意向は,住民が地域の持ち回りや圧力などで仕方なく参加している可能性があるため,「積極的に参加している」,「持ち回りや周りの圧力から仕方なく参加している」,「持ち回りや周りの圧力があっても参加したくない」の 3 段階のレベルに設定し,これらをそれぞれ順番に 3,2,1 と順序づけ定義した.

説明変数は地域性のほかに個人属性と自分が住む地域に対する思い,各地縁活動に対する思いといった個人の意識に関するものを設定する.この理由としては,地域性を含めたより包括的な変数の影響を結果から考察するためである.詳細な変数の設定については,表 1 に示す.

今回の研究の根幹である地域性は,「地域レベルで存在する社会関係資本の大きさ」,「地域のリーダーが周りの意見を聞くのか」,「地域外の主体との繋がりが強いか」,「活動に参加しなかった場合に他住民から白い目で見られるか」の 4 つである.以下にこれらを抽出した根拠を示す.

最初に「地域のリーダーが周りの意見を聞くのか」について述べる.地縁活動においては,その地域の自治会や町内会等の役割は大きく,それらを率いるリーダーのパーソナリティは地縁活動の成立には重要な役割を持つ.具体的には,住民の意見に対し,積極的に耳を傾けるリーダーならば,住民からの信頼が形成されやすく,地縁活動への協力意向に影響する可能性がある.

続いて,「地域外の主体との繋がりが強いか」について述べる.地縁活動は住民主体で行うものであるが,他主体との繋がりが強いとそれだけその活動に関する情報が得られたり,支援の協力をお願いできる可能性があり,住民の協力意向に影響する可能性がある.

続いて「活動に参加しなかった場合に他住民から白い目で見られるか」について述べる.地縁活動に参加しなかった場合に他の住民からそのことに対して,咎められるもしくは陰口をいわれるような環境だった場合,そのことを避けようと意識が働き協力意向に影響する可能性がある.

最後に,「地域レベルで存在する社会関係資本の大きさ」について述べる.地域において社会関係資本が蓄積されていれば,地縁活動を行う上での不安感が軽減されたり,地域のために働きたいという気持ちが芽生える可能性がある.社会関係資本の把握のための質問項目については内閣府(2003 年)を参考にして作成した [6].この内閣府におけるアンケート設問項目は,大きく分けて他者への信頼度,つきあい交流の大きさ,社会的な活動にどれだけ参加しているかの 3 つに分かれている.本研究で作成した社会関係資本に関する質問は,これら 3 つの要素を一つずつ聞いた 3 問の質問になっている.また,この内閣府のアンケート設問は個人単位の社会関係資本を捉える目的で作られているため,地域単位の社会関係資本を捉えるために質問の仕方を変えている.具体的には,「あなたは地域に暮らす住民との付き合いは深いですか?」という質問を「あなたはお住まいの地域全体で住民同士の付き合いは深いと思いますか?」といったように第三者的な視点から自分の住む地域に対する考えを質問した.

表 1 説明変数

変数の種類	説明変数	分析上の解釈
個人属性	性別	男性 1,女性 0
	地域に住んでいる年数	
	自治会活動への参加活発度	
自分が住む地域に対する思い	自分が住む地域に愛着を持っている	五段階
	地域で困っている人がいたら助けてあげたい	五段階
地域性	住民同士の交流が盛んである(社会関係資本)	思う 1,思わない 0
	地域で行われている活動集会等の参加率が高い(社会関係資本)	思う 1,思わない 0
	住民同士の信頼関係が強い(社会関係資本)	思う 1,思わない 0
	地域のリーダーは周りの意見をよく聞いている	思う 1,思わない 0
	地域外の主体との繋がりが強い	思う 1,思わない 0
	住民活動に参加しないと周囲から白い目で見られる	思う 1,思わない 0
各地縁活動に対する思い	地縁活動に参加することへの不安感	五段階
	地縁活動に参加することによる交流の可能性	五段階

今回使用したデータは令和 5 年 8 月 31 日~9 月 4 日の間で実施したアンケートツール「Questant」を使用した Web アンケートである.中国地方 5 県に在住する 60 代以上を対象とし,3 つの地縁活動にそれぞれ実施した結果,各活動ごとに約 330 サンプル回収した.

なお,協力意向の分析は,参加意向に対し有意となる地域性は各活動ごとに異なるという仮説の下行う.

3. 分析結果

被説明変数を参加意向とする順序ロジスティック回帰分析の結果を表 2 に示す.なお,モデルの適合度は尤度比カイ二乗統計量を用いて検討する [7].有意水準を 1%(0.01)としこの水準以下であるとモデルは

表 2　地縁活動協力意向モデル分析結果

変数の種類	説明変数	学童見守り活動	防災活動	清掃活動
個人属性	性別（男性）	-0.17(-0.37)	0.84(1.17)	0.03(0.06)
	地域に住んでいる年数	**0.02(2.05)** **	-0.02(-0.93)	**-0.02(-1.85)***
	自治会活動への参加活発度	0.17(1.05)	0.03(0.05)	0.39(1.11)
自分が住む地域に対する思い	自分が住む地域に愛着を持っている	-0.01(-0.01)	-0.06(-0.14)	0.03(0.12)
	地域で困っている人がいたら助けてあげたい	**0.92(2.12)** **	0.56(1.05)	**0.91(3.19)** ***
地域性	住民同士の交流が盛んである (社会関係資本)	-0.59(-0.78)	-0.93(-0.94)	-0.16(-0.28)
	地域で行われている活動集会等の参加率が高い (社会関係資本)	-0.48(-0.84)	**1.50(1.79)***	**0.87(2.01)****
	住民同士の信頼関係が強い (社会関係資本)	-0.32(-0.31)	0.33(0.31)	0.28(0.39)
	地域のリーダーは周りの意見をよく聞いている	0.54(0.61)	-0.13(-0.12)	0.35(0.62)
	地域外の主体との繋がりが強い	-0.68(-1.19)	0.01(0.02)	-0.58(-1.38)
	住民活動に参加しないと周囲から白い目で見られる	**1.05(2.27)** **	-0.93(-1.44)	0.04(0.10)
各地縁活動に対する思い	地縁活動に参加することへの不安感	-0.03(-0.13)	-0.44(-1.19)	**-0.51(-2.20)** **
	地縁活動に参加することによる交流の可能性	**1.41(4.22)** ***	**1.04(2.45)** **	**0.54(2.44)** **
	サンプル数	135	90	234
	AIC	223.42	148.60	314.42
	χ 二乗検定　p 値	0.001	0.005	0.001

()内は z 値を表す　***有意水準 1%　**有意水準 5%　*有意水準 10%

結果をよく表しているといえる.分析結果では,どの地縁活動の協力意向モデルも有意水準以下であり,これらのモデルは適合度が高いといえる.また,パラメータの有意性はそれぞれのパラメータに対する z 値を用いて確認する.この値の絶対値が設定された有意水準の値の絶対値より大きければ,パラメータが 0 であるという仮説を棄却できる.今回は,有意水準 1%(2.58),5%(1.96),10%(1.65)の 3 つの水準を設定した.

なお,アンケート回答において自分の住んでいる地域で,住民,行政,民間に関わらず学童見守り活動,防災活動,清掃活動が行われているかについて聞いた後,住民が関わっていると回答したサンプルのみを分析しているので,活動ごとにサンプル数が異なることに留意されたい.

まず,個人属性に関するパラメータについて確認する.個人属性において有意となったものは清掃活動,学童見守り活動における「地域に住んでいる年数」であった.学童見守り活動は,パラメータは正を示したが,清掃活動は負の値を示した.この理由としては,清掃活動は,他二つの活動とは異なり誰でも気軽に参加できる活動であることから,参加への不安が少なく,地域に住んでいる年数が長くなくても参加しようとする住民が多いからであると考えられる.

次に自分が住む地域に対する思いについて確認する.この中で有意になったものは,清掃活動及び学童見守り活動における「地域で困っている人がいたら助けてあげたい」であった.これは,共助の意識を普段から持っている人は,地縁活動への参加意向が高まることを示している.

次に,地域性に関するパラメータについて確認する.社会関係資本に関する変数では,清掃活動と防災活動に対して「地域で行われている活動,集会等への参加率が高い」が正に有意となった.しかし,「住民同士の交流が盛んである」と「住民間の信頼関係は強い」は有意にならなかった.この結果から,地域で住民間の交流が盛んであり,信頼関係が強くても,それが地域を助けるという共助意識に向かない限り,地縁活動の参加意向には繋がりにくいと考察できる.「地域のリーダーは周りの意見をよく聞いている」はどの活動に対しても有意とはならなかった.よって,住民の地縁活動への参加意向を高めるためには住民の意見に耳を傾ける以外のリーダーパーソナリティが作用する可能性がある.「地域外の主体と繋がりが強い」に関して述べる.分析結果では,どの活動に対しても有意とはならなかった.しかし,学童見守り活動と清掃活動においては防災活動と比べ比較的高い z 値が得られ,パラメータは負の値を示した.これは,防災活動と異なり運営から実施まで住民だけで行うことが可能である活動であることから,地域外の主体と繋がることが参加意向の上昇に繋がらないと推察できる.「地縁活動に参加しないと地域から白い目で見られる」に関しては,学童見守り活動において正の有意性が確認された.一方,防災活動と清掃活動においては,有意性は確認されなかった.しかし,防災活動においては有意ではないものの有意水準 10%に比較的近い z 値が得られまたパラメータも負であった.この結果から人命に関わる責任負担が大きい防災活

動への参加は住民個々の自主性が重んじられた方がよいといえる.

最後に,地縁活動に対する思いに関するパラメータについて確認する.活動に対する不安感は清掃活動に対して負の有意性を持ち,また他の活動に対しても有意とはならなかったものの,負のパラメータを示した.また,活動に参加することによる交流が協力意向を高まるかについては全ての活動に対して正の有意性を持っていた.よって,地縁活動による住民間の交流発生可能性は協力意向に正の影響を持っており,また同時に活動への不安感も協力意向に負の影響を持っていることが示された.

4. まとめ

本研究では,地域性と地縁活動の協力意向の関係について着目し,3 つの地縁活動間の比較を行いながらこれらをメタ的に分析した.その結果,地域で住民間の交流が盛んであり,信頼関係が強くても,それが地域を助けるという共助意識に向かない限り,地縁活動の参加意向には繋がりにくいこと,住民の意見に耳を傾ける以外のリーダーパーソナリティが参加意向に作用する可能性があること,住民が運営から実施までを全て行うことが困難である活動に関しては地域外の主体と繋がりが重要である可能性があること,人命に関わるような責任負担が大きい活動への参加には住民の自主性が重んじられた方がよいことが示唆された.

本研究では,3 つの地縁活動に対して協力意向分析を行ったが,今後の課題としてはより広範囲の地縁活動に関する調査を行い,さらに深い地縁活動間のメタ分析を行う必要がある.また,今回のアンケート調査では想定より得られたサンプル数が少なかった.今後より正確な分析を行うためには,Web アンケートではなく実際に地縁活動を行っている場所に伺い,直接アンケート票を配布するなどのサンプル数を増やす工夫が重要である.

参考文献

1) 村上一真,平山奈央子:地域住民による交流の場としての価値評価と保全活動意欲に関する構造分析,土木学会論文集(環境),Vol73,No5, I-173-I-181,2017
2) 谷内久美子,猪井博登,新田保次:ソーシャルキャピタル概念を用いた住民主体型バスへの賛否意識の分析,土木計画学研究・論文集,Vol26,No4,2009
3) 山口由美子,谷本圭志,長宗我部まどか:中山間地域における共助活動への協力意向に関する分析,第 66 回土木計画学研究発表会・講演集
4) 劉鶴烈, 千賀裕太郎: 住民主導型集落づくりの起動期の実態に関する考察 -福島県伊南村大桃地区を事例として-,農村計画学会誌,21 巻(2002-2003) 21-suppl 号,p193-198,2002
5) François Vaillancourt: To Volunteer or Not, The Canadian Journal of Economics/ Revue Canadienne d'Economique, Vol. 27, No. 4 pp. 813-826, 1994
6) 内閣府 NPO ホームページ: 平成 14 年度 ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて, https://www.npo-homepage.go.jp/toukei/2009izen-chousa/2009izen-sonota/2002social-capital
7) 鶴田陽和: 独習統計学 24 講 すべての医療系学生・研究者に贈る,朝倉書店,p181-p183, 2016

(? 受付)